

広島大学  
教育学部

# 後援会報

第 26 号  
2026年



# 世界に認められ社会とつながる

## 「教育の広大」

教育学部長 丸山 恭司



日頃より教育学部の取り組みにご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

後援会からは、毎年教育・課外活動や就職支援活動などのご支援をいただいております。改めてお礼申し上げます。

本会報では、教育学部をよりよくご理解いただけるよう、以下に五つの項目を取り上げて、説明ないしお礼を申し上げます。

『ヒロ子さんと巡る広島大学』と『教育の広大』広島大学の魅力を紹介する漫画が刊行されました。島耕作シリーズでおなじみの人気漫画家、弘兼憲史氏に描いていただいた『ヒロ子さんと巡る広島大学』（広島大学出版会）です。高校生のヒロ子さんの質問に学長が答える形式でストーリーが進行します。広島大学の歴史といまがわかりやすく描かれています。そして、この書籍のなかに「教育の広大」というコラムが収められています。なぜ広島大学が教育分野で高く評価されてきたのかがこのコラムを通じてわかります。是非一読ください。

INEI総会 昨年十月に開催されました。二〇二五年度INEI総会に参加いたしました。INEIはInternational Network of Educational Institutesの頭文字を取ったものです。世界トップレベルの教育学部の国際ネットワークで、日本からは広島大学のみが加盟を認められています。現在は次の十一大学によって構成されています。メルボルン大学（オーストラリア）、サンパウロ

大学（ブラジル）、トロント大学（カナダ）、北京師範大学（中国）、オーフス大学（デンマーク）、広島大学（日本）、南洋理工大學（シンガポール）、ソウル大学校（韓国）、ケープタウン大学（南アフリカ）、ロンドン大学（英国）、ウイスコンシン大学・マディソン校（米国）です。いずれもその国を代表する教育学部をもっている大学です。

二〇二五年度総会は十月一五日から一七日の三日間、サンパウロ大学において開催されました。これまで研究交流を中心に活動を行ってきましたが、更なる研究交流とともに、新たに学生交流にも力を入れることが決まりました。教育学部のホームページに総会の詳細が報告されています。

ペスタロッチー教育賞 第三四回ペスタロッチー教育賞受賞者は杉良太郎氏に決まりました。授賞式ならびに記念講演会五月二八日（木）午後開催する予定です。

本教育賞は、「民衆教育の父」と称えられるスイスの思想家であり教育実践家であったヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチーの名を冠し、その精神に通じた優れた教育実践者（団体）を顕彰するものです。第三四回受賞者である杉氏は、たいへん有名な歌手であり俳優でいらつしゃいますが、実はデビュー前から刑務所の慰問活動やベトナムでの里親・教育施設への援助など、様々な福祉活動に関わってこられました。後援会員の皆様におかれましては、ご都合があつ

きましたら、是非とも授賞式にご参列いただき、杉氏の講演を学生・教職員とともにお聴きいただけますと幸いです。

教育学部が東広島キャンパスに移転して三十七年が経ち、教育学部の各棟の老朽化も次第に目につくようになっていきます。他学部の改修が進められているなか、教育学部にその順番が回ってくるのは数年先のことのようにです。

そうした現状にあつて、大変有り難いことに、いま在学している学生さんたちが少しでも快適に過ごすことができるよう、教育学部玄関とその二階のラウンジの改装費を後援会よりご支援いただけることになりました。美術教育学プログラムでインテリアを専門とする教員（八木准教授）と学生さんに改装案をお願いし、次の総会までには改装を終えて皆様にご披露できるはずで

す。

教育学部動画集 教育学部のホームページを訪問されると、左メニューに「教育学部動画集」というバーナーがあります。こちらをクリックされると、「学部長挨拶」「学部紹介」「プログラム紹介」「研究紹介」の動画をご覧いただけます（上述のINEIやペスタロッチー教育賞についてもバーナーをクリックすることで情報が得られます）。

「学部長挨拶」には「広島弁吹き替え版」もあり、楽しんでいただくと必ずです。順次撮り直しを進めて参りました「プログラム紹介」動画も、間もなくすべてのプログラムが最新版に変更されます。後援会員の皆様のお子様も登場されているかもしれません。どんなところでどのように学ばれていらつしゃるかを知っていただける動画になっていきます。是非一度ご視聴ください。



2025年 INEI 総会 集合写真



書籍「ヒロ子さんと巡る広島大学」

# 持続可能な学生生活支援

学務委員会学生生活  
指導専門部長

梅村 比丘



後援会会員の皆様には、日頃より教育学部の学生生活に対し多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。学生生活指導専門部会では、学生が安心して学び、将来に向けて力を伸ばしていくための諸活動が、安全かつ充実した形で継続されるよう支援を行っています。

とりわけ毎年十一月頃に開催される教育学部祭 (E-storm) は、学生主体の大きな行事として、ステージ企画や

模擬店などを通じ、地域の方々や子どもたちにも楽しんでいただける、教育学部ならではの学びの場となりました。

本年度は、教育学部祭の運営体制と準備プロセスが、今後も無理なく継続できるものとなるよう見直しを行いました。従来、運営は多数の学生が役割分担して担い、主として三年生が実行委員の中心となって進められてきました。本年度は、二年生と三年生で実行委員会を構成し、次年度への引継ぎが

より円滑に進むよう、会議体制、記録の残し方、担当の割り振り等を工夫しました。加えて、学生生活の多忙化も見据え、学生自身が無理なく実行できる規模を現実的に見積もり、実現可能性と学びの質の両立を目指して計画を組み立てた点は、大きな前進であったと受け止めています。

教育学部祭は、新型コロナウイルス感染症の流行期には感染症対策を講じるなど、時代や環境の変化に応じて工夫を重ね、形を変えながら継続されました。本年度の取り組みも、こうしたこれまでのレガシーを引き継ぎ、次年度以降の学生へのバトンタッチにつながる実りあるものとなりました。

# 自分らしい進路を 実現するために

学務委員会  
就職支援専門部長

永田 良太



後援会のみなさまにおかれましては、日頃より多大なるご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。教育学部では学生が自分らしい進路を選び、それを実現できるように、今年度もさまざまな支援を行ってきました。

五月には文学部・理学部とともに「都府県別就職説明会」を開催しました。学校の管理職や教育委員会関係者など、本学の出身者で各都府県の

教育事情や教員採用事情に詳しい先生方を講師としてお招きし、二五の分科会に分かれてお話を聞かせていただきました。いずれの分科会においても、自らが希望する都府県の教員採用事情を熱心に聞き、積極的に質問する学生の様子が印象的でした。

また、十二月には本学出身者等による就職ガイダンス「教師の魅力と

仕事のリアル」を開催しました。小学校、中学校、高等学校での豊富な就職経験をお持ちの先生方に、教師の仕事や教育現場の現状について語っていただきました。教師の働き方についてさまざまな報道がなされる昨今ですが、熱意と使命感を持って教育に取り組まれている先生方の話を聞き、教師の魅力を再認識することができました。

就職ガイダンスは主に学部一、二年生、就職説明会は主に学部三、四年生を対象としたものですが、今年度は就職説明会にも学部一、二年生の参加が目立ちました。これには教員採用

加えて、本年度十月に開催された教育学部の学生と教職員の意見交換会では、学生から課題を提起してもらい、これからの教育学部のあり方、とりわけ学習環境や学習設備について意見を交わすことができました。学生・支援室・教員のコミュニケーションが深まり、共に知恵を出し合いながら、少しずつではありますが着実に改善に向かっていくことを心強く感じております。

学生生活指導専門部会は、今後も学生たちの学びを丁寧を支えながら、成長につながる学生生活が継続的に実施できる環境整備に努めてまいります。

試験の早期化も影響しているのかもしれないませんが、早いうちから卒業後の進路を意識して大学生活を送ることは望ましいことです。もちろん、卒業後の進路は教職以外にもたくさんあります。教育学部での学びを生かす場は社会の中に数多くあります。大学院でさらに学びを深めてから社会に出るというのもよいかもしれません。学生が自分らしい進路を選び、それを実現できるように、引き続き、さまざまな場を提供するように努めてまいりますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



第26回後援会総会において、承認されました令和6年度決算・令和7年度予算は下記の通りです。

### 令和6年度 決算報告

(単位：円)

収 入		
事 項	金 額	
前年度繰越	12,089,838	
会 費	<b>保護者会員</b>	
	【令和3年・4年度生】	
	学部生           4名	59,848
	【令和5年度生】	
	学部生           5名	74,189
	大学院生        0名	0
	【令和6年度生】	
	学部生       261名	3,908,459
	大学院生       18名	122,855
	専攻科生       1名	2,797
	【令和7年度生】	
	学部生       72名	1,076,246
	大学院生       13名	88,718
専攻科生       1名	2,848	
<b>賛助会員</b> 0名	0	
小 計	5,335,960	
預金利息		
普通預金	4,066	
合 計	17,429,864	

### 令和7年度 予 算

(単位：円)

収 入			
事 項	金 額		
前年度繰越	12,167,060		
会 費	<b>保護者会員</b>		
	学部生           342名	5,118,742	
	大学院生        31名	211,573	
	専攻科生        2名	5,645	
	<b>賛助会員</b> 0名	0	
	小 計	5,335,960	
	預金利息		
	普通預金	4,066	
	合 計	17,507,086	

支 出			
事 項		当初予算	金 額
事 業 費	就職開拓活動費	250,000	71,544
	就職指導等経費	800,000	762,488
	就職相談経費	1,800,000	1,616,167
	教育・課外活動経費	500,000	372,422
	国際交流費	150,000	150,000
	広報活動費	580,000	548,882
	図書費	150,000	130,386
	雑費	30,000	0
	小 計	4,260,000	3,651,889
	運 営 費	会議費	80,000
通信・連絡費		300,000	303,557
事務費		60,000	50,741
事務処理費		1,200,000	1,201,857
予備費		100,000	0
小 計	1,740,000	1,610,915	
計	6,000,000	5,262,804	
次年度繰越金			12,167,060
合 計			17,429,864

支 出			
事 項	金 額	摘 要	
事 業 費	就職開拓活動費	200,000	県教委・企業訪問旅費など
	就職指導等経費	800,000	就職指導講話経費など
	就職相談経費	1,800,000	人件費(就職担当教員)
	教育・課外活動経費	530,000	課外活動支援など
	国際交流費	150,000	留学生との交流支援など
	広報活動費	550,000	後援会報発行など
	図書費	150,000	就職関係書籍購入など
	雑費	30,000	
	小 計	4,210,000	
	運 営 費	会議費	80,000
通信・連絡費		350,000	会員などへの郵送費
事務費		60,000	消耗品購入
事務処理費		1,900,000	人件費(専従職員)
予備費		100,000	
小 計	2,490,000		
特別事業費	教育環境設備整備費	4,800,000	教育学部建物改修費
	小 計	4,800,000	
計	11,500,000		
次年度繰越金	6,007,086		
合 計	17,507,086		

## 教育実習

### ●教育実習(小学校)

教育学部 第二類  
初等教育教員養成コース 三年

遠藤 壮真



私は二〇二五年八月二日から十月三日までの五週間、広島大学附属三原小学校の一年生の学級で、教育実習をさせていただきました。毎日が学びであまりにも満たされていた実習期間での、気付きや所見について、僭越ながら述べさせていただきます。

教育実習は、これまでの大学での学びを発揮する場。私はそう思いながら、「いざ実習へ。」と意気込んだことを記憶しております。しかしながら、児童の「生」の様子を目の前にすると、大学の講義を聞いているときには、分かっていたいなかった・想像できていなかった、児童の姿がありました。

教師の一方的な押しつけでは、児童が授業についてきてくれないということとを学びました。こんな授業をしたら、目を輝かせてくれるのではないかと、

どんなに授業を練ったとしても、それを単にやらせるだけでは、児童の学習意欲を引き出せないのです。教師主体で喋ってゆくほどに、児童が、学びからどんどん離れていく感覚が、実習生である私にも、痛いほどに伝わってきたのです。ここで重要なのは、児童と教師との対話、つまりは一方的ではなく、双方向的な授業の構築だと教わりました。児童のつぶやきを価値づけ、児童の考えと、教師がもつ授業の意図を結びつけることで、児童が「やりたい」と思える、学びの深い授業が実現されるということを感じました。きっと完璧などないであろう、飽くなき授業づくりというものに苦しめられながらも、楽しさと充足を感じることでできる実習となりました。

このような「実り」ある習いをできましたのは、ご多忙ながらも支えてくださった先生方や、共に支え合った実習の友あつてこそのもので、心より感謝申し上げます。



教育実習(小学校) 授業風景

ださった先生方や、共に支え合った実習の友あつてこそのもので、心より感謝申し上げます。

### ●教育実習(中・高等学校)

教育学部 第三類  
英語文化系コース 三年

西本 志帆



私は、二〇二五年九月一日からの約二週間、広島大学附属東雲中学校で、また九月一七日からの約二週間、広島大学附属福山中・高等学校で、外国語(英語)科の教育実習をさせていただきました。今回の教育実習では、大学で学んだ理論を実践の場で用いる機会となり、多くの気づきや学びを得ることができました。本稿では、その中でも特に印象に残っていることを紹介させていただきます。

それは、「生徒との対話を通して授業を作り上げていく」ということです。実習前に私が考えていた指導案は、教師の説明を中心とした、教師主導の授業スタイルになっていました。しかし、授業実践や、先生方からの助言を通して、生徒から引き出しながら授業を進めることの重要性に気付くことができました。

例えば、教科書の本文理解において、内容確認の問題に答えさせるだ

けではなく、根拠となる部分や既習事項について生徒に問いかけながら進めることで、生徒が受動的に授業を受けるのではなく、主体的に授業に参加しているという意識を持たせることができるという学びました。そのような問いかけを効果的に行うためには、教材研究を通して生徒に問うべき箇所を精査したり、細案作成の段階で、問いや予想される生徒の反応に応じた教師の声掛けをあらかじめ考えたりすることが必要であることも学びました。

教育実習を通して、本物の生徒を前にして教壇に立つという、教師としての実感を得ることができました。今回得た貴重な経験を踏まえ、今後の学びに活かしていきたいと思えます。最後になりましたが、お忙しい中丁寧にご指導くださった先生方、そして協力してくださった生徒の皆さんに、心よりお礼申し上げます。



授業風景

### 就職情報資料室より

## 自分自身が分かれば、 やりたいことの答えが出る

就職担当客員准教授

藤原 雅和



「就職」とは、文字どおり職に就くことです。それは、大学生の皆さんにとって卒業後の重要なテーマの一つです。適職を探し職に就くこと、職のために腕を磨くこと、さらに職を極めることは生涯を通じた課題でありライフワークです。

その中であって、  
「そもそも、自分は何をしたいのだろうか？」  
「いったい、どんな仕事が自分に向いているのだろうか？」  
「会社選びで後悔しないためにどうすればいいのか？」

就職情報資料室を利用する学生とこのような会話をすることは少なくありません。就職すれば一安心。大企業に入れば一生安泰。そんな時代はとっくに終わりをづけました。

あの新型コロナ感染によってもたらされた不況時もそうでした。派遣会社の社員を受け入れている企業が経営難に陥れば、働きの口を失うのは一番に非正規社員です。そのことは、全業種で働く正社員にとっても、決して他人事ではありません。「あの会社が潰れるなんて、あるわけがない」と誰もが思っていた大企業すらも、いやむしろそのような企業こそが、存亡の危機を迎えています。

これから、社会に出ていく若者にとって「自分はこれから、いったいどのように働いていけばいいのだろうか」という不安は、これまで以上の切実さをもって身に迫ってくるはずですが、したがって、自分の性格やこれまでの学生生活での経験を振り返り「本当に自分に向いている職業、仕事内容は何か」を十分に時間を掛けて考えるべきです。

私から言えるのは、「それは、自分で決めてください」ということです。企業・公務員の就職支援を担当する立場でありながら少し突き放しているように感じられたかもしれません。しかし、決してそうではありません。適職の最適解はすでに今、あなた自身が持っています、という事を言いたいです。就職情報資料室を訪ねてきた学

生へ一言、「イメージで企業を選んではいけない」といつも話をします。イメージ(憧れ)先行で職業を選ぶと、自分の価値観を心の隅に追いやり、本心を偽ってキャリアを選択してしまうことになります。

まずは、「自分がどうありたいのか？」という問いから始めてみましょう。正しい自己理解(自己分析)によって「あなたが気づいていない本当の強み」が分かり、結果として自分にぴったりの適職と出会うことができます。私は思います。今一度考えるべきは「自分自身の価値観」です。

企業は今、「人への投資」から「AIのツールへの投資」へとシフトしています。予測困難な時代、その激しい変化に応じて企業から求められる人材像もこれまでの能力重視から人間性、つまり「人物重視」へと大きく変化し始めています。「しっかりと自分の内面を見つめて自分の強みに気づき、それを何かしらのアウトプットに繋げられる行動力のある人」に、そのチャンスの扉は開かれています。

学生みなさん、教育学部就職情報資料室には多くの情報と就活図書、そしてみなさんの先輩が毎年後輩のために残してくれた合格体験記などの貴重な情報も多く在り気軽に利用できま



就職相談中



就職情報資料室にて

す。実際にどのような情報があるのか、一度足を運んでみてはいかがですか。就職活動で一番大事なことは「自分自身を知ること」で、やりたいことも答えが出ます。それからがスタートではないでしょうか。

## 就職活動体験記

### ●就職活動報告(教員)

教育学部 第一類  
初等教育教員養成コース 四年

新谷 叶汰



教員採用試験に向けて何から手を付ければ良いのか、当初の私は大きな不安を抱えていました。近年の試験制度の変化や、自治体ごとの傾向の違いを前に立ち止まっていた私にとって、一歩を踏み出す大きなきっかけとなったのが「就職情報資料室」の存在でした。

まずは、資料室に足を運び、杉原先生に「今、何をすべきか」を真っ先に相談しました。先生は私の状況を丁寧に聞き取った上で的確なアドバイスをくださり、進むべき方向が明確になりました。また、室内には過去の試験問題集だけでなく、最新の教育雑誌や先輩方の体験記が豊富に揃っており、それらに目を通すことで具体的な試験のイメージを膨らませ、スムーズに学習をスタートすることができました。

学習を進める中で、筆記対策の進め方などで壁にぶつかることも多々ありました。しかし、その都度資料室へ向かえば、疑問を解消できるテキストや資料が必ず見つかりました。必要な情

報がすぐ手に届く環境があったからこそ、焦ることなく対策を継続できたと感じています。

四年生になり、本格的な面接や模擬授業の対策が始まると、同じ自治体を目指す仲間で構成される「県人会」での活動が中心となりました。ここでも就職情報資料室のサポートは不可欠でした。グループとしてどのように対策を進めるべきか、時期に応じた具体的な指針をいただいたおかげで、迷わずに実践的な練習に打ち込むことができました。

さらに、県人会のメンバー、一人ひとりが個別に資料室を活用し、杉原先生から志望理由書の添削や個別面接の指導を受けていました。そこで得た学びやアドバイスを県人会のグループ内で共有し合うことで、互いの視点を広げ、切磋琢磨しながら全体のレベルを高めていくことができました。

私が教員採用試験に合格することができたのは、真剣に指導やアドバイスをくださった先生とこの充実した資料室、そして共に高め合うことのできる仲間がいたからだと思えます。これから試験に臨む皆さんも、ぜひ積極的にこの場所を活用し、仲間と共に教員採用試験の対策に取り組んでみてください。



教員採用試験体験記



教員採用試験問題集など

### ●就職活動報告(教員)

教育学部 第三類  
英語文化系コース 四年

網谷 陽香



私は長崎県の教員採用試験に合格しました。校種は高校、教科は英語です。試験対策は同じ自治体の試験を受ける受験生が集まる「県人会」を中心に行いました。今年度は試験日程が前倒しとなり、一次試験は五月上旬、二次試験は六月下旬〜七月上旬に実施されました。

私は大学推薦という枠で一次試験を突破しました。しかし、推薦での出願にあたり分からないことが多く、不安もありました。そんな中、就職情報資料室の杉原先生を訪ねました。先生は各教育委員会と密接に連携されており、県人会の仲間から出た試験に関する質問や、採用後に関する疑問など、実施要項だけでは分からないことを直接教育委員会の方に確認していただきました。

二次試験では個人面接と模擬授業が課されます。長崎県では事前に提出する「面接調査票」というものが

あり、それをもとに面接が行われます。杉原先生に添削してもらったことで、自分の強みをより印象的に伝えられる表現に整えることができ、安心して提出できました。

就職情報資料室には各都道府県の過去問に加えて、教育や教採に関する雑誌、過去の先輩方の勉強や試験に関する資料等がそろっています。模擬授業は主に過去問を使って、県人会の仲間や同じ学科の仲間と対策を行いました。雑誌には最新の教育時事や注目されているトピックについての解説が載っているので、それらを活用して教育観を深めることができました。

就職情報資料室の過去問や雑誌、そして何より杉原先生のご指導は、教員採用試験を受けるにあたって私に「安心」と「自信」を与えてくれました。これから教員採用試験を受ける方々にもぜひ活用してほしいと思います。



県人会の仲間と杉原先生に相談

## ●就職活動報告(一般企業)

教育学部 第一類  
初等教育教員養成コース 四年

森 涼夏



私が就職活動で最も苦戦したことは、就活軸を見つけることでした。教育実習を終えた三年生の十月から本格的に就職活動を開始しましたが、周囲の友人が次々とやりたいことを明確にし、志望業界を定めていく中で、私は自分の将来像を描けず焦りを感じていました。何から手をつけなければよいか分からず行き詰まっていたとき、友人の紹介で十二月に初めて就職情報資料室を訪れました。

初回面談では、自己分析を通じて自分が大切にしたい価値観を言語化していただきました。その中で、自分では些細なことだと思いついてきた経験が実は価値観の根源になっていたことに気づき、徐々に自分なりの就活軸を持てるようになっていきました。また面談を通じてこれまで関心の無かった業界が自分の就活軸と合致していることにも気づかされ、最終的にはその業界に絞って選考を進めることができました。

進めることができました。

選考が本格化した一月以降は、資料室での手厚い面接対策が大きな自信へとつながりました。当初は面接に強い苦手意識を持っていましたが、面接の基本的な流れから印象に残る自己PRの方法まで具体的に対策していただいたことで本番では自信を持って面接に臨むことができました。特に自己PRでは、「再現性」を伝えることの重要性を学んだことで、自分の強みを企業でどのように活かせるのかを意識しながら伝えられるようになりました。

何より印象に残っているのは、就職活動が思うように進まず不安を感じていた私に、藤原先生が常に前向きな言葉をかけ続けてくださったことです。その支えがあったからこそ、就職活動を自分自身と向き合い将来を考える時間として楽しむことができました。

就職活動終了後も、今後のキャリアの考え方や社会人としての心構えなど、多くの助言をいただいています。就職情報資料室を利用した経験は、私にとつて就職活動

だけでなく、その先の人生を考える上でも貴重な学びとなりました。心より感謝申し上げます。



就職情報資料室

## 課外活動

### ●国際交流

教育学部 第四類  
健康スポーツ系コース 三年

今岡 そら



私たち柔道部女子部員は、全日本学生柔道優勝大会女子二部(三人制)で優勝したことをきっかけに、監督である出口先生のつながりにより、フランスの道場から招待していただき、今年三月に遠征してきました。現地では、道場での技術指導・練習・交流、フランス国営スポーツセンターの視察や、フランス文化や歴史に触れる機会をいただきました。

様々な場面で日本との違いを感じ、それまで当たり前だと思っていた価値観を改めて見直すきっかけとなり、貴重な経験をさせていただきました。現地の道場では、年齢や性別、障害の有無に関わらず、異なる立場の人々が柔道に取り組んでおり、勝敗を争う競技としてだけでなく、礼儀や集中力を身に付ける教育的価値のある生涯スポーツとして認識されていることが印象的でした。また、技術指導の際、言語の壁があるなかで、私たちの不慣れた英語での説明も丁寧に聞いてくださったこと、さらに礼儀やマナーな

ど日本文化を大切にされていたことも心に残っています。

異なる立場の人々が、礼儀を重んじながら技術の習得に熱心に取り組んでいる姿を見て、勝ち負けを超えた柔道の本質的な魅力や楽しさを改めて実感し、これからの柔道への向き合い方を考えさせられました。

慣れない環境での滞在は、精神的・身体的に大変なことも多くありましたが、道場の方々に非常に親切にしてください、柔道以外の日常生活の場面でも、サポートしていただきました。今回、私たちにこのような貴重な機会を作ってくれた全ての方々に感謝し、この遠征で得た経験や学びを、今後の活動、人生に活かしていこうと思います。



一般のクラス集合写真



子供たちに技の指導

プログラム紹介

教育学プログラム



「教育」とは何か。それは学校の授業だけを指すのか。そもそもそれは「良い」営みだと言い切れるのか。それは世界中で普遍的なものなのか。私たちにとって身近な「教育」は、簡単には捉えられない奥深さを持っています。教育学部第五類教育学プログラム、通称「教育教(きょうきょう)」は、こうした教育の根源的な問いに本気で向き合い、教育の意味や可能性を探究し続けている教育学のコミュニティです。

教育では、日本と世界の歴史・文化・制度、学校の授業実践、教育政策、さらには哲学的思想や社会との関わりまで、多様な観点から教育を考える機会があります。一・二回には、各領域において第一線で活躍されている先生方から、基礎理論や研究方法を体系的に学びます。また、それらを問い返し、議論を重ねる演習を通して、教育学の幅広い知見と論理的・批判的思考を身に付けていきます。三年次以降は自身の関心に基づいて研究室を選択し、少人数のゼミ形式で専門的な研究を進め、その成果を卒業論文として結実させます。

教育の大きな魅力は、学年や学生・教員、専門領域といった様々な垣根を

越えて、心ゆくまで語り合える土壤にあると感じます。授業や研究活動のみならず、オリエンテーション合宿やスポーツ大会、読書会などのイベントを通して、互いを尊重し、高め合う関係が育まれています。教育には唯一の正解はありません。だからこそ教育には、異なる価値観を歓迎し、対話により問いを深めていく文化が根付いています。教育で学ぶ日々は、自分自身の生き方や社会のあり方を見つめ直し、人間的な成長を実感できる、かけがえない経験となっています。



新入生オリエンテーションキャンプ(通称:Pキャン)

教育学部 第五類  
教育学系コース 三年  
平井 花乃



本プログラムでは、心理学の主要な領域を幅広く学ぶとともに、研究方法に関する講義や、実際に実験・調査を行う科目を通して、「こころ」の多様な側面を系統的に理解し、しくみを解明し、課題に向き合う力を養います。錯視など実際に自分が体験しながら「こころ」の不思議を学ぶことも多く、興味深い授業ばかりです。

また公認心理師などの心理専門職を目指す学生に向けては、一年次から公認心理師の職務について学ぶ授業が開講されており、早くから進路について考える機会が設けられています。三年次からは心理専門職が実際に働く現場を訪問する実習が行われ、施設や支援内容についての事前学習を行ったうえで実習に臨み、実習後には得られた学びを整理して発表するという構成を通して、現場に対する理解をより一層深めることができます。私が四年次の際の実習では、お話を伺うだけでなく実際に施設の利用者の方と関わる経験をさせていただき、仕事のやりがいや難

しさにについても改めて考えることができたと感じています。

卒業後は、公認心理師・臨床心理士を目指し臨床心理学実践・研究コースへ進学する学生だけでなく、心理学先端研究コースへ進学して自身の研究を深めていく学生、学びをいかして一般企業や公務員として活躍する進路も広がっています。「こころ」を専門的に学びながら、学部段階から現場と関わる経験を積める点が、本プログラムの大きな魅力です。



「心理実習Ⅱ」の実習報告会の様子

教育学部 第五類  
心理学系コース 四年  
黒飛 綺水

プログラム紹介

心理学プログラム

## プログラム紹介

# 教職開発(教職大学院)



人間社会科学研究科教職開発プログラム教職開発専攻は、いわゆる「教職大学院」で、学部卒業後すぐに入学した学部卒院生と、学校現場での経験を積んだ現職教員院生が在籍する「教育実践開発コース」と、より経験の豊富な現職教員院生が在籍する「学校マネジメントコース」の二コースで構成されている専門職学位課程です。毎年、一学年三〇名ほどが入学し、ともに学び合っています。

院生は、日々の授業科目の受講や研究分野ごとのゼミでの検討などを通してよりよい教育実践の土台となる理論的な知識について学びつつ、学校現場での実習科目「アクション・リサーチ実地研究」において、授業実践や調査を行うことで実践的な知識についても学んでいます。それをまた大学に持ち帰り、ゼミや授業で振り返る「理論と実践の往還」により、さらにブラッシュアップされた理論や実践へとつなげていくことを目指しています。

現職教員院生と学部卒院生の日常的な交流も盛んで、授業でも一緒に課題に取り組み、授業づくりをする機会が多く設定されています。その中で、学

部卒院生は、現職教員院生のもつ学校現場でのリアルな実践的知識に触れ、自身の研究について再検討するなど、自分なりの新たな学びに繋がっています。また、現職教員院生にとっても、学部卒院生と関わることで、今までの経験の中にある自身の信念にあらためて気づいたり、新たな視点を持つことができたりすることがあるようです。このように、未来を担う子どもたちの育成を目指し、様々な立場の院生が日々研鑽に励んでいる活発なコースです。



教職開発専攻第9期生(令和6年入学)と先生方

人間社会科学研究科 専門職学位課程  
教職開発専攻 教職開発プログラム  
教育実践開発コース 二年 中村 向陽



本プログラムでは、学校教育や初等教育に関する知識や教育方法だけでなく、子どもとのかかわり方や実践力も身に付けることができます。

一年次には、広島大学附属の小学校や広島市内の小学校へ学校見学に行きます。授業者の立場としての授業を見て、授業を観察する視点を養うことができます。二年次には、夏休みに上級生の教育実習を観察することができます。先輩方の授業準備や授業の様子を見て、先輩方の指導力や授業の工夫に圧倒され、大学での学びや教育実習への意欲を高めることができます。三年次には、五週間にわたる教育実習があります。教育実習に向けて大学の講義で学習指導案を作成したり、三〜五名の実習班で授業構成を話し合ったり、模擬授業をしたりしながら、授業力や指導力を高めていきます。教育実習中は、広島大学附属の小学校の先生方のご指導や子どもたちの反応から指導力を高めることができます。四年次には、卒業論文作成だけではなく、副専攻の教育実習があります。

本プログラムの魅力は、学習支援やフレンドシップ事業、野外活動の授業を履修することができ、実践力を高めることができることです。私はその中でも、フレンドシップ事業を三年間続けてきました。小学生が楽しむことができるような活動を企画・準備・運営しています。先生方や先輩方からのアドバイスもいただけるため、実践的な経験やスキルを身に付けることができる貴重な機会だと思っています。



定例会での様子

教育学部 第一類  
初等教育教員養成コース 三年 森永 愛理

## プログラム紹介

# 初等教育学プログラム

就職情報資料室より

## 「一個」上の先輩に向かって「真ん中らへん」で「させていただきます」と言って「大丈夫だったり」します？



就職情報資料室客員教授 杉原 敏彦

20年ほど前だったか。「大丈夫です」をめぐって、ちぐはぐなやり取りをした記憶がある。コンビニのレジで「一緒に入れて大丈夫ですか？」と聞かれた。熱いものと冷たいものを一緒にしてよいかとのことだと気付いたが、「大丈夫ですか」は一緒にすると危険である若しくは身体に悪い影響が考えられるが、敢えてそのようにするのかと聞かれていると思い、「やはり危険でしょうか」と答えて怪訝な顔をされた。「日本語コンサバ」としては、大丈夫とは「丈夫でしっかりしているさま」「危なげなく安心できるさま」を意味する言葉であって、肯定・許諾・時に否定の意味では使わないと思っていたし、今もって自分では使わない。

「させていただきます」は丁寧な言葉遣いとして今や年代を問わず幅広く便利に使われている。一方で相手に違和感を与えることも少なくない用法である。先日、テレビのニュースで花の名所を訪れた人が「毎年この時期に来させていただいております」と話していた。私には「毎年この時期には上司に有給休暇を申請し、許可をいただいております」と聞こえる。

最近気になるのは、「たりする」の多用である。複数の話題・選択肢があるわけでもないのに、取材クルーが「カメラが入ったりして大丈夫ですか？」。私の語感では「たり～たり～」の呼応がないと、やはり日本語として落ち着かない。喫茶店でコーヒーを注文の後「コーヒーの方お持ちしました」（二人ともコーヒーなんですけど）「コーヒーになります」（少し待ってれば？）と言われた時も違和感が募るなあ。

さて、上に述べたような表現を教員採用試験の場面で使うのは「大丈夫」だろうか？ 10年ほど前であれば、他の言い方に換えた方がよいと助言しただろう。教員採用試験の評定者は国語の乱れに敏感な世代だし、日ごろから新しい言葉遣いには消極的な「日本語コンサバ」が多いと考えられるからである。しかし、この2、3年何県もの教採担当者と話してきたが、彼ら自身の言葉遣いは概して「現代的」であり、私から言えば「あなた方もか」と思ってしまう。それからすると、それほど気を使わなくてよいのかもしれない。

とは言うものの、こういうこともあった。先日久しぶりに授業研究会に参加した。授業者はなかなかの熱血派で声も大きく、もの言いもきはきしていて好感がもてる。ところが、何度か児童に話しかけるうちに、言葉の語尾が「じゃん」となった。「真ん中らへん」「右らへん」「一個上」の人（私の語感では、年齢、学年を個とは言わない。「個」は有体物に付ける語）などと多用されると研究会の主役の言葉遣いとしてはいかがなものかと思ってしまう。案の定、授業後の批評会ではこっそりと指導されていた。おそらくこの人は、フレンドリーな雰囲気の中で授業を進めたいと思ったのだろうが、評価者にはそうは受け取られなかったのだ。このことの教訓として、教員採用試験も少し改まった意識で臨む方がよいかと思うが、柔らかな雰囲気との境は「どこらへん」なのか。

まあ、気がかりな人、心配に思うときには、就職情報資料室を訪ねてみてはいかが。そこに駐在している先生と少し話をするだけで、修正した方がよい言葉遣いは直ぐ指摘してもらえるはず。気になることがあるなら、「こういう言い方をして問題ありませんか」と直接尋ねればよい。その他にも、就職情報資料室には多くの活用の仕方がある。せつかく教育学部後援会が支援してくださっている場所だもの。しっかり使いこなしましょうよ。



集団面接の指導



県人会の引継ぎ

### ■ 編集後記

教育学部後援会では、夢と希望に満ちて入学してきた学生たちが、充実した学生生活に向けて努力し、充実した学生生活を送ることができるよう就職活動や教員採用試験などへの支援をはじめ、課外活動の支援、発表会等の教育活動支援など様々な支援を行っております。

特に、就職情報資料室においては、専門家の教員を配置し、就職を目指す学生、企業等への就職など、各々の進路を目指す学生たちのために必要な情報を正確に収集し、多くの学生にきめ細やかなアドバイスを行っていただいております。

また、昨年九月の後援会総会においてご承認いただいた、教育学部管理棟の玄関及び二階ラウンジのリニューアルについて、現在、美術教育学プログラムの教員及び造形芸術系コースの学生さんにご協力いただきながら、準備を進めております。引き続き、教育学部後援会として、高い志を持って入学された学生の皆さんが充実した大学生活を送れるように支援してまいります。今後とも会員の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ● 発行

広島大学教育学部後援会事務局  
〒七三九一八五二四  
東広島市鏡山一丁目一番一号  
(〇八二) 四二四一四四三二一